

新型コロナに寄せて

2 区隊 通信科 宮本征洋

1. まえおき

新型コロナウイルスの感染拡大のニュースが半年に亘り連日報道され、いい加減ウンザリしている所です。世界的感染拡大は留まることなく、既に感染者は1千万人超、死者数も50万人を超えています。

国内でも感染者数は2万人を超え、死者数は1千人に迫る勢いです。

5月25日に緊急事態宣言が解除され、その後も感染者数は首都圏を中心に増え続け、全く油断できない状況です。

そこで、新聞等からの情報を基にコロナ禍の特徴を把握して、感染防止に賢く対応出来たらと願う次第です。

2. コロナウイルスのルーツ

- (1) コロナウイルスはコウモリと共存しているウイルスです。コウモリのウイルスが変異して、ハクビシンなどを介して人に感染して起きたと言われています。
- (2) 中国では野生動物は食用や漢方薬の原料として、伝統的に重要されてきました。中国湖北省武漢で発症し、全世界に瞬く間に拡散されました。

3. 新型コロナウイルスの特徴

死因の大半は肺炎です。インフルエンザによる肺炎はウイルスが肺に入って起きることが多い。これに対し、新型コロナは免疫機構がウイルスに打ち勝とうとするあまり、暴走状態に陥って重い肺炎を起こす。

そのメカニズムは病原体が体内に侵入すると「サイトカイン」という物質が分泌され、これを合図に病原体に対する免疫の攻撃力が高まっていく。

だが、新型コロナはこの働きが過剰になり、免疫機能は自分自身の細胞まで嵐のように攻撃してしまう。「サイトカインストーム」という現象で、「肺で起きる血管炎症が発生し、酸素を取り込む機能が低下し、重い呼吸不全に陥る」。

進行は急激で、数時間の内に自分で呼吸が出来なくなる。死者の多くは、ウイルスだけでなく、細菌による肺炎を併発したケースもある。血管を塞ぎ血液の流れを止めてしまう血栓も重篤化の一因になる。

米国では患者が脳梗塞を併発した例や肺に血栓が詰まり呼吸困難になり、子供が重篤化するケースもある。特効薬のワクチンはまだない。

4. むすび

ウイルスは30億年前に地球上に誕生し、あらゆる生物に見つかっている。

これからは新型コロナと如何に共存するかが重要です。

ワクチンや治療薬の開発は喫緊の課題です。

ノーベル医学・生理学賞受賞の京都大学山中伸弥教授は現在、新型コロナの影響で社会が大きく変化し

ている。

リモートワーク、オンライン授業、診療等新たな感染症の危機に立ち向かえる社会をつくる必要があるという。

感染拡大を抑えるには

(1)人と人の接触を減らす。

(2)感染者を早期に発見し、隔離する。

(3)ワクチンの開発等が不可欠で、国民全員が賢い行動を粘り強く続けることが必要であると提言されています。